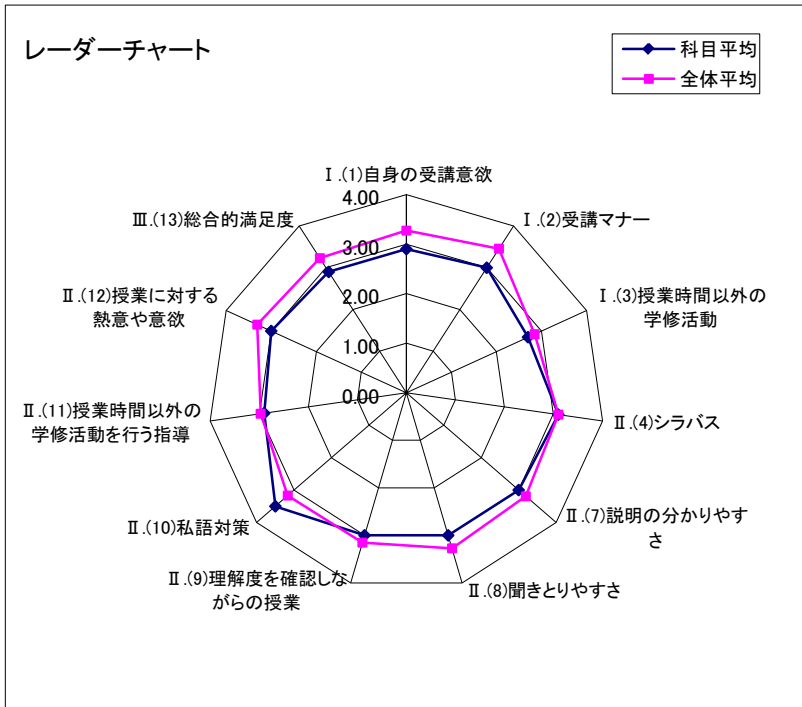
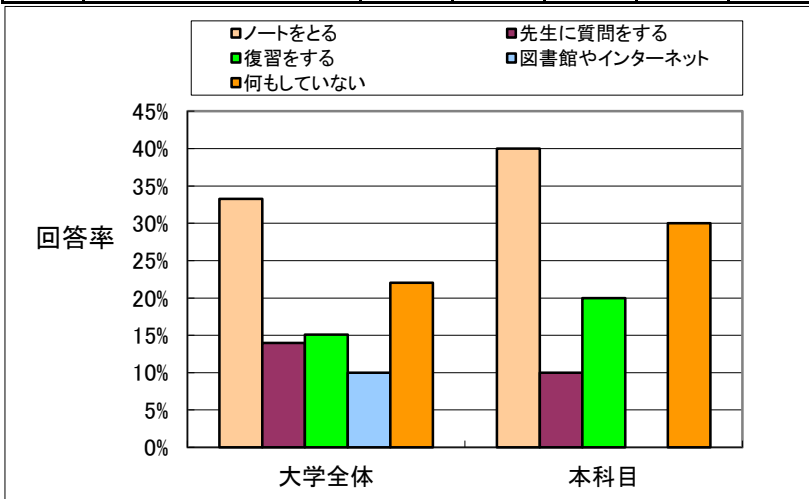


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14)	授業を理解するための工夫	0.40	0.10	0.20	0.00	0.30



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	2.90	3.27
	I.(2)	3.00	3.46
	I.(3)	2.70	2.85
講義内容・方法	II.(4)	3.10	3.10
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.00	3.19
	II.(8)	3.00	3.27
	II.(9)	3.00	3.15
	II.(10)	3.50	3.17
	II.(11)	2.90	2.97
	II.(12)	3.00	3.31
	総合評価	III.(13)	2.90

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	2.87	3.19
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.07	3.17
II.(4)~(12)		
総合評価	2.90	3.23
III.(13)		

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度 前期
時間割番号	3437
科目名	商法 I・商取引法
教員名	

①授業計画の達成度について
 商法における基本的な各種法制度の全体像を把握すること、条文の解釈及び判例を素材として法規適用の実際を学習させることを主目的としている。配付資料をもとに、これらをシラバスに掲載の順序で講義している。とくに法律学の学習は、条文が基本であるから、六法の携帯は常日頃から厳しく指導している。特に法律解釈に関する能力を養成するため、授業において自ら考えることの大切さを教えている。
 到達目標は法律を勉強する学生にとっては必須のものと考えている。難易度的には、最初は難しいと感じるかもしれないが、判例等を学習するさい、条文の運用を具体的に勉強するので、継続的な勉強により次第に慣れてきて効果をあげることができる。受講意欲が平均値より

②授業の進め方について
 声は大きい方ではきはきと話すので大教室でも後方にいる学生にもわかりやすいと思う。どうしても十分でないときはマイクを使う方法もあるのでこの点は問題ではない。授業の中で判例を読む練習において、学生の個々の理解の様子を確認するため、教室を巡回しながら見ることにしている。商法の総則部分の授業であるから、会社法と比較すると学生にはややおもしろみに欠けるかも知れないが、少しサボリ気味の者が目立つ。個別に注意して勉強を促すようにしている。データからは授業以外の自習をやっている者が少なからずいるようであるが、学習への興味にはつながっていないようである。
 学生の満足度は、受講意欲とともに平均値より低い。身近な制度であるには違いないが、地味な感じがするのに興味がかかないと推測される。学生の授業への参加態度は、出席学生はほぼ全員が静かである。総合的満足度が低いのは、学習効果が目に見えて確認できる

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について
 全般的に、特に自らの受講に関しては消極的な判断をしている者が多いようである。しかし授業への参加の様子を見てみると、熱心に授業に参加している学生が多い。講義から少しでも多くを身につけようとする態度がうかがえる。科目の性質上、総則部分は具体的な例を挙げて説明をすることが適切であると考えられる。